

- トップコラム／科学ジャーナリスト・筑波大学社会学類非常勤講師・元読売新聞科学部記者 東嶋 和子
- 新年のご挨拶
- OSLのフロンティア／シリーズ[2] 青色刺激光の時代
- お願い／新年度ご契約更新について
- お年玉クイズ／クイズに答え、希望賞品を当てよう!!

ト  
ッ  
プ  
コ  
ラ  
ム  
73



東嶋 和子

## 正当に怖がることはなかなかむづかしい

地球という星に生命が誕生した瞬間から、わたしたちと放射線とのつきあいは始まっています。

とはいえ、放射線の存在を認識し、その長所短所もくめて利用するようになった歴史は、わずか一世紀。この間、専門家のあいだでは放射線をよく知る努力がなされてきたものの、一般市民にはその成果が十分伝わっていないのではないのでしょうか。かくいう私も科学ジャーナリストと名乗りながら、放射線については無知と胸を張れる(?)ほどでした。

私が放射線を強く意識したのは1998年、チェルノブイリ原子力発電所事故の被災地となったベラルーシ共和国に医療調査団の一員として出かけたときのことです。出発前は、放射能汚染されたキノコやパンを食べて大丈夫だろうかなどと、獺とした不安を抱えていました。

ところが、最も被害を受けたゴメリ州でも、「埋葬の村」と呼ばれた地域に住民が戻り、以前と変わらぬ暮らしを営んでいました。ソフィア・ローレン似の保健士さんが、キノコや牛乳といった食品の放射能を測り、住民の健康を守る努力をしていたのです。「ピクニックに行きましょう」と誘われ、川辺に布を広げてほおばった黒パンやチーズのおいしさといったら!

放射線が「測れる」ことを目の当たりにして、やみくもに怖がるのではなく、量に応じて対処し「安心」することこそ重要だと知りました。

帰国後、国内外の原子力施設を見てまわるうち、原子力施設に対する市民の不安、いかえれば、放射線に対する不安をなんとか正当な理解に変えられないだろうか、と考えるようになりました。

寺田寅彦先生おっしゃるところの、「ものを怖がらな

過ぎたり、怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正当に怖がることはなかなかむづかしい」。この「正当に怖がる」という難問に向きあってみようと思ったのです。

一方で私は、医療の取材を通じて「人の生き死に」のあり方を深く考えるようになり、さまざまなリスクを正当に評価できないか、という動機から『死因事典』(2000年、講談社)を書きました。

ひとつのリスクにこだわる「虫の視点」と、さまざまなリスクを俯瞰する「鳥の視点」とをもったことで、「正当に怖がる」ことに一歩近づけたと思います。

2002年には、WEN(ウイメンズ・エナジー・ネットワーク)主催の「暮らしと放射線シンポジウム」にパネリストとして招かれました。「ラジアルタイヤに放射線を当てて強化している」「銀座通りは放射線のレベルが高い」……。放射線の利用や自然放射線にかかわるあまたの事実をつきつけられ、目からポロリとうろこが落ちたのです。

放射線についてもっと知りたい!持ち前の好奇心がむくむくと頭をもたげ、4年にわたる取材をへてものが、『放射線利用の基礎知識』(2006年、講談社)です。

自明のことですが、どんなものにも恩恵とリスクが同居しています。それを天秤にかけて、リスクを最小にとどめ、恩恵を最大に得る努力をする。それが、人類の知恵の営みではないでしょうか。

昨年7月の新潟県中越沖地震では、柏崎刈羽原子力発電所から漏れでた「微量の放射性物質」が一般市民の不安をあおりました。しかし、人体への影響はというと、ラジウム温泉として有名な鳥取県・三朝温泉のお湯9リットル分に相当する量に過ぎません。行く先々で、この例えを市民のみなさんにお話すると、「それなら安心した」と胸をなでおろされます。

正当に怖がることはなかなかむづかしい。だからこそ、その努力を今日も続けていきたいと思っています。

とうじまわこ (科学ジャーナリスト・筑波大学社会学類非常勤講師・元読売新聞科学部記者)

プロフィール●1962年生まれ。筑波大学比較文化学類卒業。在学中、文部省交換留学生として米国カンザス大学留学。外務省外交フォーラム外務大臣賞受賞。「いのち」をキーワードに科学と社会のかかわりを追っている。著書に『よみがえる心臓』(オーム社)、『放射線利用の基礎知識』『死因事典 人はどのように死んでいくのか』『遺伝子時代の基礎知識』『メロンパンの真実』(いずれも講談社)、『この病院で最新治療』(文藝春秋)、『ロボット教室』(光文社)など。現在、月刊文藝春秋に「新・養生訓」、全国地方紙に「東嶋和子の解体新書」、Medical Bio誌に「人体再生に挑む」など連載中。科学技術・学術審議会、原子力委員会専門委員など公職多数。

# あけましておめでとうございます。

2008年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、猛暑の夏に見舞われ節電を強いられ、いかに私たちの生活が電気に依存しているかを思い知らされた一年でした。太陽光発電、風力発電など環境に優しい発電方法も開発されていますが、まだまだ実用には遠く、我々の生活を満たすまでには至っていません。世界中で環境に優しい発電が私たちの生活を潤してくれるのを祈るばかりです。

さて、当社の親会社であるランダウア社はグローバル化を強力に推し進めています。米国、南米、ヨーロッパ、日本以外に最近ではオーストラリアにJ/Vを作り、又メキシコにもJ/Vを作る予定があります。このようにグローバル化を進める中、世界で均一なサービスが行えるようにシステム開発も進めています。皆様にご紹介出来るのもそう遠くないものと思われま。

最後に皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。2008年 元旦



代表取締役社長  
中井 光正



取締役副社長  
ウィリアム E.  
サクセルビー

## スタート



H. MATOBA



T. IIDA



M. KOKUBUN



H. HAKAMATA



I. KOBAYASHI



K. IMAI



M. SEVA



C. OGAWA



K. ONISHI



J. KAMEI



F. TATSUTA



K. ONISHI



F. TSUBOMATSU



M. SAKUMA



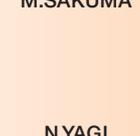
N. YAGI



T. SATO



M. FUNAOKA



T. SATO

今年もよろしく  
お願いいたします。

ゴール





お願い

カスタマーサービスより

新年度ご契約更新について

日頃より当社のルクセルバッジサービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。本年も引き続きよろしくお申し込み申し上げます。

まもなく新会計年度（平成20年度）を迎えます。多くのお客さまの事業所では、契約更新時期にあたるため、ご担当者は予算編成や契約更新の準備等で、たいへんお忙しくなることと存じます。当社でも、この時期はバッジサービスの契約に関するお問い合わせや必要書類のご依頼をいただくことが多くなって

まいります。そのため提出日が差し迫っておりますと、間に合わなくなることもでてまいりますので、更新手続きに必要な書類等がございましたら、出来るだけお早めにご指示くださいますよう、関係部署にお伝えのほど、よろしくお願い申し上げます。

〔当社のバッジをご紹介ください〕

お客様のお知り合いの中で、新たにX線装置の導入をご検討中の施設、また、ルクセルバッジを使用されていない施設等がございましたら、是非、当社のバッジをご紹介ください。ご契約をいただいた際には、些少ではございますが、謝礼をさせていただきます。

お年玉クイズ

クイズに答え、希望賞品を当てよう!!

日頃、「NLだより」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございます。今年も恒例の「お年玉クイズ」を行いますので、多数のご応募をお待ちしております。

A 賞

Panasonic 電動自転車 (BE-EPD632-S)

1名様



B 賞

東芝DVD ポータブル プレイヤー (SD-P70D)

3名様



C 賞

カシオ電子辞書 (XD90N)

6名様



問題

下は共通のあるものを持った集まりですが、1つだけ仲間はずれがあります。それはなんですか。

・量 ・パン ・台風 ・碁盤 ・サイコロ

\*ヒントは1月中旬頃当社ホームページに掲載する予定です。

【応募方法】 官製はがきに、クイズの答えと希望賞品および郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号と今後やって欲しい企画をお書き添えの上、下記の宛先までご応募ください。

(お一人様1通のみ有効)

【応募宛先】 〒103-8487 東京都中央区日本橋久松町11-6 長瀬ランダウア株式会社「お年玉クイズ」係

【締め切り】 2008年1月31日(木)必着

【当選発表】 NLだより4月号 (No.364) 掲載予定

\*お客様の個人情報は、商品発送の委託業者に提供する場合を除き、承諾無く第三者に提供することはありません。

編集後記



また新しい年になりました。さしもの夏も時移って冬となれば、今度は身にしむ寒さの季節です。そしてその冬もまた、来たりなば春遠からじ、といひます。

怖いものと言えば、地震、神鳴、…と人知を超えた自然現象が筆頭でした。加えて現代は様々な「怖いもの」が溢れています。多くは「正当な怖がり方」が困

難な人間由来のシロモノで、その挙句に手が宙を舞うことにもなりかねない。

愚考するに、怖がるのが古い脳であり、正当にそれを制御するのが新しい脳なら、その機構を上手く働かせるには健全な前頭葉を維持しなければならない。

だから「正当に怖がり」、「正当に怖がれないようなものを作らない」ためには、余裕がある。ちょっと止まって息を抜く、そして考える。(石山 智)

長瀬ランダウア(株)ホームページ・Eメール

<http://www.nagase-landauer.co.jp>  
e-mail: [mail@nagase-landauer.co.jp](mailto:mail@nagase-landauer.co.jp)

■当社へのお問い合わせ、ご連絡は  
東京 Tel.03-3666-4300 Fax.03-3662-6096  
大阪 Tel.06-6535-2675 Fax.06-6541-0931

**NLだより** No.361 平成20年<1月号>  
毎月1日発行 発行部数：31,000部

発行 長瀬ランダウア株式会社  
〒103-8487  
東京都中央区日本橋久松町11番6号  
発行人 中井 光正